

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究^(シ01)

研究組織 米沢玲、橘川英規、江村知子、田代裕一郎、小山田智寛、小林真美、高階郁美、中村茉貴、荒川理沙、浅野真知（以上、文化財情報資料部）

目 的 内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたち
に整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。あわせて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うこ
とを視野に入れる。

成 果

1. 調査研究の成果の公開と、研究情報の国際発信

- 当研究所刊行論文を機関リポジトリに公開した（追加：26件、累積：15タイトル4,066件）。
- 日本国内刊行展覧会カタログ掲載論文（2021（令和3）年発表分）の書誌情報「東京文化財研究所美術文献目録」（1,178件）を、OCLCWorldCatに提供した（3月）。

2. 国内外の関連機関との連携・成果公開

- 北米美術図書館協会（ARLIS/NA）による日本（東京）でのスタディツアーのホストを務め、主にアメリカからの15名の参加者とともに関連機関の視察を行い（10月21～23、25日）、来日記念国際シンポジウム「美術アーカイブと図書館における国際連携」を当研究所内で開催し、所内外から71名が参加した（10月22日）。
- アメリカのゲッティ研究所との共同研究において、当研究所所蔵の貴重書340件をウェブサイト公開、Getty Research Portal（GRP）へ719件の書誌情報を提供した（12月）。
- 共同研究を行っているイギリスのセインズベリー日本藝術研究所からユーヅニア・ヴォグダノワ氏（7月8日）、サイモン・ケイナー所長（10月9日）、櫻井芳氏ら（10月26日）がそれぞれ来訪し、研究協議を行った。さらに橘川と田代が訪英し大英博物館、セインズベリー日本藝術研究所ほか関連機関を視察し、橘川がロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）とイースト・アングリア大学（UEA）において講演会を行った（2月26～28日）。また、研究協定に基づき、国外で発表された英文による日本芸術関係文献のデータ（310件）を追加公開した（12月）。
- 京都府との共同研究：京都府が所蔵する昭和初期の文化財調査写真のうちフィルム約200本をデジタル化し、約6,483件のメタデータを付した（計22,803件）（3月）。データベースの公開に関する研究協議を実施した（3月13日）。
- 金素延氏（韓国・梨花女子大学校教授）を来訪研究



上：ARLIS/NA スタディツアー（10月21日）、下：SOASでの講演（2月26日）

員として受け入れ、研究交流を行った（12月1日～2月5日）。

発 表

- 米沢玲：「イギリス滞在報告ーセインズベリー日本藝術研究所とイギリスのライブラリー、ミュージアム視察」令和6年度第1回文化財情報資料部研究会 24.4.30
- 橘川英規：「東京文化財研究所所蔵近現代美術アーカイブ」ARLIS/NA来日記念国際シンポジウム「美術アーカイブと図書館における国際連携」24.10.22
- 田代裕一郎：「シンポジウム「朝鮮白磁研究の現在」と京畿道広州における近年の窯跡調査に関する報告」東洋陶磁学会総会 24.6.8
- 田代裕一郎：「韓国美術における自然と技藝」第20回松下幸之助国際スカラシップフォーラム 24.10.12
- 金素延：「金剛山を描く：韓国近代における金剛山の認識変化と視覚化」令和6年度第9回文化財情報資料部研究会25.1.21
- 橘川英規：Yutaka and Europe-Conceptual art exchange-From a library and archives perspective, Japan Research Centre Seminar Series, University of London The School of Oriental and African Studies, 25.2.26
- 橘川英規：Building and Using Japan's Modern and Contemporary Art Archive-The Work of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties, Tobunken Lecture Series, University of East Anglia, 25.2.27

日本東洋美術史の資料学的研究 (シ02)

研究組織 小野真由美、江村知子、二神葉子、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子、田代裕一郎、月村紀乃、黒崎夏央（以上、文化財情報資料部）、塩谷純（上席研究員）、小林公治（特任研究員）、津田徹英、後藤亮子（以上、客員研究員）

目 的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査及び研究を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。これにかかる国内外の研究交流を推進する。

成 果

1. 研究基盤となる資料整備

美術史研究のコンテンツ制作の一環として、16～17世紀の古記録から美術に関する記述を抄出し、テキストデータとして入力を進めた。現在までに入力したデータは264件にのぼる。さらに、國華社旧蔵のガラス乾板（東京国立博物館所蔵）のデータベース構築に向けて、紙焼き写真のデジタル化を実施し、これまでに1,012件をデジタル化した。

これらのデータ化により、美術史に関連する歴史的記事へのアクセスを容易なものとするべくデータベース化を試みている。また、國華社旧蔵写真には貴重な画像が含まれており、今後の美術史研究に資する資料となることが期待される。

2. 研究交流の推進

ア) 日本美術に関する研究交流の一環として、外部研究者を交えた研究会を開催した。本発表を通じて、これまで詳細が不明だった絵師の画業について、新たな知見が得られた。

- ・荏開津通彦氏（山口県立美術館）：「長谷川等哲について」23.11.29

イ) 海外における美術史研究の動向を把握するため、在外研究者を招き、研究会を開催した。本発表を通じて、海外における最新の研究状況を知る機会となり、有意義な交流が実現した。

- ・万木春氏（中国美術学院）：「王詒《漁村小雪図》巻について」25.2.26

3. 研究誌『美術研究』の編集を行い、とくにイタリアにおける近代日本絵画に関する研究成果を掲載した（『美術研究』445号）。

- ・田中知佐子（鶴見大学）：「大倉喜七郎の文化支援——一九三〇年「羅馬日本美術展覧会」開催を巡る諸相——」
- ・篠原聰（東海大学）：「研究ノート 日本画シンδροーム ローマ日本美術展覧会と鏑木清方の出品画をめぐり」
- ・吉井大門（横浜市歴史博物館）：「研究資料 大倉集古館所蔵「羅馬開催日本美術展覧会関係資料群」の全貌」

4. 日本美術に関する国内外における調査を行った。

- ・小野真由美：米国・ノートン美術館およびフロリダ州内に所蔵される東洋美術品に関する調査 24.10.26
- ・津田徹英（客員研究員）：広島・常称寺および高知・個人蔵の文化財の調査 25.2.26～27

発 表

- ・後藤亮子（客員研究員）：「余紹宋と近代中国の書画史学」令和6年度第4回文化財情報資料部研究会 24.7.23
- ・小野真由美：「江戸時代初期における袁宏道『瓶史』の受容について——藤村庸軒の花道書の紹介をかねて——」令和6年度第6回文化財情報資料部研究会 24.10.29



在外研究者による研究発表（2月 万木春氏）



高知県での調査風景

近・現代美術に関する調査研究と資料集成 ^(シ03)

研究組織 橘川英規、吉田暁子、黒崎夏央、江村知子、城野誠治（以上、文化財情報資料部）、塩谷純（上席研究員）、三上豊、田中淳、丸川雄三（以上、客員研究員）

目 的 日本の近・現代美術を対象として、東京文化財研究所蔵の資料をはじめ他機関や個人が所蔵する作品及び資料の調査研究を行い、これに基づき研究交流を推進する。併せて、これまで蓄積してきた美術関係者情報の整備・発信に努め、また主に現代美術に関する資料の効率的な収集と公開体制の構築を目指す。

成 果

1. 黒田清輝作品及び関連資料の調査研究・公開

- ・黒田清輝作品及び関連資料の調査研究の成果、当研究所における美術史研究の歴史を、「黒田清輝とその時代」展（鹿児島市立美術館、7月）、特別講演会（泉屋博古館東京、7月13日）、「黒田清輝と近代絵画の冒険者たち」展（東京国立博物館、8月）、明治美術学会第2回例会（9月22日）、東京国立博物館月例講演会（10月12日）で発表した（吉田、塩谷）。
- ・シンポジウム「黒田清輝、その研究と評価の現在—没後100年を機に」を開催した（1月10日）。塩谷の講演、三谷理華氏（女子美術大学）、高山百合氏（福岡県立美術館）、友岡真秀氏（鳥取県立博物館）の発表とディスカッションを行った。

2. 日本の近現代美術作家及び美術関係者に関する調査研究

- ・織田東禹《コロポックルの村》をめぐってを開催した（9月6日、文化財情報資料部第5回研究会）。藏田愛子氏（東京大学）、笹倉いる美氏（北海道立北方民族博物館）、品川欣也氏（東京国立博物館）、吉田の発表とディスカッションを行った。
- ・5年度に引き続き、蒐集家・秋元洒汀について新出資料を踏まえ、論考をについて発表した。
- ・5年度に引き続き、下関市立美術館にて岸田劉生《壺》等の作品の光学調査を行い（3月17～19日）、『光学調査・研究資料リーフレット』シリーズの刊行準備を行った。
- ・「清宮質文資料」についてを開催した（住田常生氏（高崎市美術館）、3月6日、令和6年度第12回文化財情報資料部研究会）。

3. 現代美術資料の整理作業及びデータベース化

- ・継続事業である我が国美術界の動向をめぐる基本情報の蓄積・発信について、2021（令和3）年に逐次刊行物・展覧会図録で公表された研究成果をデータベース化し、『日本美術年鑑』令和4年版を発表した（1月25日）。
- ・島崎清海、ストライプハウス美術館、笹木繁男の旧蔵資料等の目録情報を公開した（5月23日、7月1日、9月25日）。

4. 当研究所蔵近現代美術資料データベース公開に向けての調査

- ・矢代幸雄寄贈等西洋美術写真資料、明治大正美術史編纂事業収集資料の整理、公開準備を行った。
- ・森岡柳蔵旧蔵資料のアーカイブ化：5年度に受贈した森岡柳蔵旧蔵資料（85点）のデジタル化・データベース化を行った。

論 文

- ・塩谷純：「黒田記念館と東京文化財研究所—その沿革と近年の研究成果について」『没後100年 黒田清輝とその時代』鹿児島市立美術館 pp.122-123 24.7
ほか3件

発 表

- ・吉田暁子：「織田東禹《コロポックルの村》をめぐって」令和6年度第5回文化財情報資料部研究会 24.9.6
- ・吉田暁子：「月例講演会 近代絵画の冒険—黒田清輝と東博の近代絵画コレクション」東京国立博物館 24.10.12
- ・塩谷純：「黒田清輝の画業について—神津港人の視点から」シンポジウム「黒田清輝、その研究と評価の現在—没後100年を機に」 25.1.10
ほか3件

刊行物

- ・吉田暁子、塩谷純：『没後100年・黒田清輝と近代絵画の冒険者たち』東京国立博物館 24.8



シンポジウム「黒田清輝、その研究と評価の現在—没後100年を機に」（1月10日）

美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開^(シ04)

研究組織 江村知子、月村紀乃、二神葉子、橘川英規、小野真由美、米沢玲、小山田智寛、吉田暁子、田代裕一朗、黒崎夏央（以上、文化財情報資料部）、菊池理予（無形文化遺産部）、早川典子、山田祐子（以上、保存科学研究センター）、塩谷純（上席研究員）、早川泰弘、小林公治（以上、特任研究員）、安永拓世（客員研究員）

目的 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのようにに関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多角的に分析し、その関係の解明を目指すものであり、美術作品に対するより深い理解の醸成が期待される。

成果

1. 隣接諸分野と連携した多角的調査・研究

- 和泉市久保惣記念美術館との共同研究に関する覚書にもとづき、同館学芸担当職員と協議を重ね、「山崎架橋図」、「達磨図」、宮本武蔵筆「枯木鳴鵑図」（いずれも重要文化財）などの光学的調査を実施した（11月13～15日）。その成果をふまえて「山崎架橋図」について光学調査報告リーフレットを作成した（3月）。
- 東京国立博物館との共同研究で、当研究所保存科学センター、無形文化遺産部と協力し、マイクロスコープを用いて絹本絵画を調査し、画絹の糸の太さや本数、断面形状などを計測し、地域や時代による傾向を抽出する研究を平成31年度以降継続している。6年度は、狩野探幽筆「新三十六歌仙図帖」（東京国立博物館蔵）など17点の作品の調査を実施した（6月21日、8月6日・21日、2月25・26日）。この調査研究成果は、東京国立博物館絵画彫刻室および同・博物館情報課により、「東博所蔵品画絹データベース」（東京国立博物館研究情報アーカイブズ）として公開が開始された（4月2日）。6年度中に順次情報を追加し、「普賢菩薩像」、「紅白芙蓉図」（いずれも国宝）をはじめとする合計41件の作品に関する画絹の情報をウェブ公開した。

2. 研究成果の公開と蓄積データの機能拡張・相互連携

- 日本の美術工芸に関する研究会を2回行った（12月18日、2月25日）。
- 売立目録デジタルアーカイブで公開している作品情報375,159件について47,223件の校正作業を行って情報更新したことに加えて、これまでの取り組みについて『國華』誌上で論文の形で成果公開を行った。
- 美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年記資料集成）作成として、展覧会図録等から年記のある作品の資料を順次収集して入力し、6年度の入力件数は1,290件となった。

論文

- 安永拓世：「東京文化財研究所の「売立目録デジタルアーカイブ」について」『國華』1549 pp.43-45 24.11

発表

- 安永拓世「熊野速玉大社の古神宝類に見る熊野の神々」第50回 奈良国立博物館 夏季講座「神々の信仰をめぐる美術」 奈良国立博物館 24.8.23
- 安永拓世：「呉春の表現の源流を求めて―蕪村・群禽・白梅図屏風―」大和文華館 特別展「呉春一画を究め、芸に遊ぶ―」講演会 24.10.20
- 月村紀乃：「長尾美術館に関する基礎的研究―美術研究所との関わりへの解明に向けて―」令和6年度第8回文化財情報資料部研究会 24.12.18

刊行物

- 『和泉市久保惣記念美術館・東京文化財研究所共同研究資料1 重要文化財 絹本着色「山崎架橋図」和泉市久保惣記念美術館蔵』（リーフレット）12p 25.3



東京国立博物館での調査(2月25日)



研究会風景(12月18日)

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

研究組織 二神葉子、江村知子、小野真由美、橘川英規、米沢玲、小山田智寛、田代裕一朗、月村紀乃、石灰秀行、城野誠治、谷口每子、武藤明子、安岡みのり、酒井かれん(以上、文化財情報資料部)、薬師寺君子(客員研究員)
広報委員(情報システム部会): 友田正彦(副所長) 各部署情報システム部会員: 菅原章、安孫子卓史(以上、研究支援推進部)、橘川英規(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、倉島玲央(保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)
広報委員(年報部会): 友田正彦(副所長) 各部署年報部会員: 小杉則彬(研究支援推進部)、小野真由美(文化財情報資料部)、今石みぎわ(無形文化遺産部)、千葉毅(保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)

目 的 高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化する光学調査・研究を行い、その成果を公開する。また、東京文化財研究所で行われる調査研究に関する情報や、国内外の文化財に関する多様な情報について分析し、それらを文化財保護に対して活用するための調査研究を行う。さらに、それらの情報の効果的な公開手法に関する調査研究を行い、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。

成 果

1. デジタル画像の形成方法の研究開発

- 所内の他プロジェクトとの連携、また、所外からの依頼により、長崎歴史文化博物館所蔵「泰西王侯図屏風」などについて、調査研究や修理のための光学調査、記録作成を実施した。
- 皇居三の丸尚蔵館との共同研究として、「万国絵図屏風」などの作品調査を実施した。また、『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本着色春日権現験記巻十七・巻十八 光学調査報告書』、『皇居三の丸尚蔵館所蔵 重要文化財 紙本着色世界図 光学調査報告書』を2月に刊行した。
- 沖縄県立博物館・美術館との共同研究として、琉球王朝時代の絵画作品の調査撮影を2月に行った。

2. 文化財情報に関する調査研究

- 釧路市立博物館との共同研究として、協議及び考古遺物の記録作成、同館での写真パネル展示(3月)を行った。
- タイ文化省芸術局との共同研究として、6月に日本、11月にタイでの漆工材料調査を行った。また、タイでの日本製漆工品の調査を4月及び10月に行った。さらに、過去の成果に関する報告書を刊行した。
- 当研究所でのデータベース運用及び活用、世界遺産一覧表登録推薦の評価プロセスの課題に関して調査研究を行い、論文や学会等での発表を行った。

3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信

- 研究情報の発信の一環としてウェブサイトを活用し、笹木繁男氏主宰現代美術資料センター寄贈資料(作家ファイル)目録などウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。ウェブサイトのウェブアクセシビリティ対応を進め、特に資料閲覧室ウェブサイトは形式及び内容を全面的に更新した。さらに、メールマガジン、ソーシャルメディアを通じた情報発信を行った。

- エントランスロビーパネル展示「文化遺産保護と3次元計測」を5月27日に開始、解説パンフレット(日英)を制作した(文化遺産国際協力センター担当)。また令和4年度の展示「タイ・バンコク所在王室第一級寺院ワット・ラーチャプラディットの漆扉」を、タイ文化省芸術局及び同寺の協力でバンコクの同寺で10月30日に開始した。
- 年報部会員と連携し、『東京文化財研究所年報2023』を6月30日付で刊行した。

4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実

- 情報システム部会員と連携し、情報セキュリティ研修(3月19日開催)や、各職員の端末を含むネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を行い、セキュリティ水準の維持向上に努めた。
- 文化財情報基盤整備の一環として、仮想化基盤ストレージを更新し、仮想化サーバの安定的な運用環境を確保した。また、無線LANアクセスポイント、基幹スイッチを更新し、より安定した高速なインターネット接続が可能な環境を整備した。

論 文

- 二神葉子:「世界遺産一覧表登録推薦の評価プロセスにおける課題と解決に向けた取り組み—特に信頼性の確保について—」『美術研究』443 24.10

ほか3件

発 表

- 小山田智寛:「データベースにおける検索とキーワードの関係について」第58回オープンレクチャー 24.11.1

ほか1件

刊行物

- 『皇居三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵巻十七・巻十八 光学調査報告書』 25.2

ほか3件

ウェブサイトアクセスランキング(令和6年度 上位10位まで)

1	異体字リスト	6	異体字リスト英語版
2	研究資料データベース	7	総合検索
3	東京文化財研究所日本語トップ	8	文化遺産国際協力センター
4	黒田記念館	9	東京文化財研究所英語トップ
5	物故者記事(桑原実)	10	黒田清輝について

ウェブサイトの主な更新履歴(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

年月日	更新内容	関係部局
24.4.2	文化財害虫を調べられるウェブサイト「文化財害虫検索」公開	保存科学研究センター
24.4.5	開催案内 東京文化財研究所 一般公開	研究支援推進部
24.5.23	資料閲覧室収集アーカイブズ「島崎清海旧蔵資料」情報公開	文化財情報資料部
24.5.27	エントランスロビー展示「文化遺産保護と3次元計測」	文化遺産国際協力センター
24.6.10	開催案内 文化財修復技術者のための科学知識基礎研修	保存科学研究センター
24.6.10	開催案内 文化財保存修復に関するワークショップー写真の識別と保存	保存科学研究センター
24.6.28	開催案内 森と支える「知恵とわざ」ー無形文化遺産の未来のためにー	無形文化遺産部
24.7.1	資料閲覧室 収集アーカイブズ「ストライプハウス美術館 / ストライプハウスギャラリー旧蔵資料」の情報公開	文化財情報資料部
24.7.2	開催案内 こども文化遺産ワークショップ「文字と記号で謎を解く！古代エジプト人の技」	文化遺産国際協力センター
24.8.1	高德院国宝銅造阿弥陀如来坐像(鎌倉大仏) 調査記録公開	文化財情報資料部
24.8.9	開催案内 第34回研究会「学校教育と文化遺産」	文化遺産国際協力コンソーシアム
24.9.2	資料閲覧室収集アーカイブズ「ギャラリー山口旧蔵資料」情報公開	文化財情報資料部
24.9.4	開催案内 「東京文化財研究所における実演記録事業(講演) 一龍斎貞水師を偲んで」	無形文化遺産部
24.9.6	映像「伝統材料と道具のひみつー彫刻刃物編ー」公開	無形文化遺産部
24.9.9	開催案内 第58回オープンレクチャー かたちを見る、かたちを読む	文化財情報資料部
24.9.25	笹木繁男氏主宰現代美術資料センター寄贈資料(作家ファイル) 情報公開	文化財情報資料部
24.9.25	開催案内 シンポジウム「美術アーカイブと図書館における国際連携」	文化財情報資料部
24.10.2	開催案内 令和6年度シンポジウム「モニュメント」はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興」	文化遺産国際協力コンソーシアム
24.10.2	開催案内 第35回研究会「文化遺産保護と奈良文書ー国際規範としての受容と応用ー」	文化遺産国際協力コンソーシアム
24.10.29	第18回無形文化遺産部公開学術講座「文化財修理と在来絹製作ー絹織製作研究所の技術をつなぐー」	無形文化遺産部
24.11.20	映像2件「オオツツラフジの採取・加工ー岐阜県揖斐川町」、「大野のシダ籠ー広島県廿日市市」公開	無形文化遺産部
24.11.26	開催案内 フォーラム「ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」	保存科学研究センター
24.12.13	開催案内 2024年度 美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会	保存科学研究センター
25.1.31	資料閲覧室 機関アーカイブズ「松島健旧蔵資料」の情報公開	文化財情報資料部
25.2.12	開催案内 国際研修「紙の保存と修復」2025	文化遺産国際協力センター
25.3.4	記録映像『彫刻刃物 製作技術の記録ー株式会社 小信・齊藤和芳ー その1～8』	無形文化遺産部

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充 ^(シ06)

研究組織 米沢玲、橘川英規、江村知子、田代裕一朗、小山田智寛、山永尚美、寺崎直子、鈴木良太、山下麻依(以上、文化財情報資料部)

目 的 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。あわせてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

成 果

1. 全所的な文化財情報の発信
 - 当研究所副所長を委員長とするアーカイブWGを例年通り4回(6月12日、9月5日、12月12日、3月13日)開催し、各部・センターの代表アーカイブの拡充と積極的な情報発信を行うための協議を行った。
2. 文化財研究のためのデータ蓄積と公開
 - 当研究所で所蔵している松島健資料を追加公開した(追加件数:354件/8月、148件/1月)。
 - 個人所蔵だった円空に関する資料の寄贈を受け、目録情報の整理を進めた(約600件/12月)。
 - 当研究所で所蔵している4×5写真フィルムの原資料とデジタルデータの整理を進めた(25,340件、12月)。
 - 当研究所で所蔵している久野健資料を追加公開した(追加件数:約13,400件/3月)。
 - 令和5年に受け入れた前田青邨文庫について、東文研OPAC上で、リスト及びPDFの公開を行った(275点/12月)。
 - 資料閲覧室で収蔵しているマイクロフィルムのデジタル化を進めた(計83本/3月)。
 - 資料閲覧室に収蔵されている韓国絵画の調査写真420枚とそのメモ146枚をデジタル化し、資料集を刊行した(9月)。
3. アーカイブを利用した研究・外部機関との協力
 - 当研究所の所蔵資料を「没後100年・黒田清輝と近代絵画の冒険者たち」(東京国立博物館)、「雪村一常陸に生まれし遊歴の画僧一」(茨城県立歴史館)、「香取秀真の眼」(佐倉市立美術館)、「トキワ荘マンガミュージアムへの道〜めさまし草あたりから」(豊島区立トキワ荘マンガミュージアム)、「池田蕉園と輝方一夢みる美人画一」(山口県立萩美術館・浦上記念館)に貸し出した。
 - 国内外の大学・大学院学生や専門家などを対象とした資料閲覧室の利用ガイダンス等を行った(7月3日共立女子大学、11月26日東京藝術大学、12月15日韓国史研究者(団体)、1月7日韓国梨花女子

大学校)。

4. 資料閲覧室の運営・管理・資料受け入れ数
 - 例年通り週3日(月・水・金)開室した。閲覧室利用状況:公開日総数138日・年間利用者合計752人 図書等の受け入れ和漢書1,416件、洋書115件、展覧会図録・報告書等1,989件、雑誌2,526件(合計6,046件)。

発 表

- 山永尚美:「行政機関で作成された映像資料とその関連資料の管理と利用可能性について」 令和6年度第2回文化財情報資料部研究会 24.5.14
- 橘川英規:「美術司書の仕事」〈アートwith〉レクチャー 24.12.6
- 田代裕一朗:「関野貞の朝鮮絵画調査と朝鮮人蒐集家ー東京文化財研究所所蔵の調査資料をもとにー」 令和6年度第10回文化財情報資料部研究会 25.2.17

刊行物

- 田代裕一朗編:『東京文化財研究所所蔵 韓国絵画調査資料 資料集』東京文化財研究所 24.9.30



韓国・梨花女子大学校学生へのガイダンス(1月7日)

令和6年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）^{（シ08）}

研究組織 江村知子、月村紀乃、吉田暁子、黒崎夏央、二神葉子、橘川英規、小野真由美、小山田智寛、米沢玲、田代裕一朗（以上、文化財情報資料部）、塩谷純（上席研究員）

目 的 文化財情報資料部の研究成果の一部を広く一般に公開する。

成 果

- 11月1日（金）、2日（土）の2日間、一般から聴講者を募集し、第58回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」を開催した。講演テーマは次の通りである。
- 11月1日（金）
 - 小山田智寛（文化財情報資料部主任研究員）「データベースにおける検索とキーワードの関係について」
 - 逢坂裕紀子（国際大学 GLOCOM研究員）「AI時代におけるデジタルアーカイブ文化の保存・継承・活用に向けて」
- 11月2日（土）
 - 田代裕一朗（文化財情報資料部研究員）「韓国陶磁鑑賞史—韓国におけるコレクションの形成」
 - 川島公之（（株）薩山龍泉堂代表取締役、東京美術商協同組合理事長）「中国陶磁鑑賞史—近代のわが国における中国陶磁鑑賞の受容と変遷」
2. 両日合わせて、外部からの聴講者138名が参加され、アンケートの結果およそ9割から「大変満足した」「おおむね満足した」との回答を得た。
3. 1日目にはウェブデータベースとデジタルアーカイブをテーマとして、社会的な重要性が急激に増大している情報通信やAI技術についての課題と展望を、一般の聴講者にとってわかりやすく解説した。2日目には韓国と中国の陶磁鑑賞史をテーマとして、若手研究者による発表と、世界的に活躍する古美術商であり研究活動も実践されている川島公之氏を講師に招へいすることにより、多重的な講演会とすることができた。



第58回オープンレクチャー チラシ



講演風景

総合研究会 ^(④シ)

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。令和6年度は下記のスケジュールで開催した。

- 第1回 2024(令和6)年10月1日(火)
小田原直也(無形文化遺産部)「無形文化財と映像 ―映像制作者の視点から―」
- 第2回 2024(令和6)年11月5日(火)
片渕奈美香(文化遺産国際協力センター)「近代染織品の保存に関わる諸問題―初期合成染料を中心に―」
- 第3回 2024(令和6)年12月3日(火)
島田潤(保存科学研究センター)「新たな文化財害虫～外来種ニュウハクシミの生態と防除～」
- 第4回 2025(令和7)年2月4日(火)
二神葉子(文化財情報資料部)「世界遺産条約の履行に関する近年の状況」

文化財情報資料部研究会 ^(④シ)

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。令和6年度の開催内容は以下の通り(肩書きは発表時のもの)。

- 4月30日(火) 米沢玲(文化財アーカイブズ研究室長)
「イギリス滞在報告―セインズベリー日本藝術研究所とイギリスのライブラリー、ミュージアム視察」
- 5月14日(火) 山永尚美(文化財情報資料部アソシエイトフェロー)
「行政機関で作成された映像資料とその関連資料の管理と利用可能性について」
- 6月25日(火) 井内佳津恵(北海道立三好太郎美術館)
「戦前期朝鮮半島美術家・作品・記事データベース」の成り立ちについて(報告)」
- 7月23日(火) 後藤亮子(文化財情報資料部客員研究員)
「余紹宋と近代中国の書画史学」
- 9月6日(金) 吉田暁子(文化財情報資料部研究員)
藏田愛子(東京大学 大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻 助教)
品川欣也(東京国立博物館)
笹倉いる美(北海道立北方民族博物館)
「織田東禹《コロボックルの村》をめぐって」
- 10月29日(火) 小野真由美(日本東洋美術史研究室長)
江戸時代初期における袁宏道『瓶史』の受容について―藤村庸軒の花道書の紹介をかねて―
コメンテーター：山本嘉孝(国文学研究資料館)
- 11月29日(金) 荏開津通彦(山口県立美術館)
「長谷川等哲について」
コメンテーター：戸田浩之(皇居三の丸尚蔵館)・廣海伸彦(出光美術館)

- 12月18日(水) 月村紀乃(文化財情報資料部研究員)
「長尾美術館に関する基礎的研究—美術研究所との関わりの解明に向けて—」
- 1月21日(火) 金素延(韓国・梨花女子大学校、東京文化財研究所来訪研究員)
「金剛山を描く—韓国近代期における金剛山の認識変化と視覚化」
通訳[逐次]: 田代裕一郎(文化財情報資料部研究員)
- 2月17日(月) 徐胤晶(韓国・明知大学校)
「安堅と東アジアの華北系山水画—伝称作、偽作、そして唐絵のなかの朝鮮絵画」
通訳[逐次]: 田代裕一郎(文化財情報資料部研究員)
- 金貴粉(国立ハンセン病資料館)
「近代朝鮮における書の専門化過程とその特徴—官僚出身書人の動向を中心に—」
- 田代裕一郎(文化財情報資料部研究員)
「関野貞の朝鮮絵画調査と朝鮮人蒐集家—東京文化財研究所所蔵の調査資料をもとに—」
- 2月25日(火) 江村知子(文化財情報資料部部長)
「酒吞童子絵巻の魔力」
並木誠士(京都工芸繊維大学)
「狩野派と酒吞童子絵巻」
小林健二(国文学研究資料館名誉教授)
「響き合う能と絵巻」
討議: [司会] 江村知子、[コメンテーター] 上野友愛(サントリー美術館)
- 2月26日(水) 万木春(中国美術学院)
「王詠《漁村小雪図》について」
通訳[逐次]: 後藤亮子(東京文化財研究所客員研究員)
- 3月6日(木) 住田常生(高崎市美術館)
「清宮質文資料」について
コメンテーター: 井野功一(茨城県近代美術館)

文化財情報資料部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

北米美術図書館協会 (ARLIS/NA) 来日記念 国際シンポジウム 「美術アーカイブと図書館における国際連携」

(①シ01の一部として実施)

北米美術図書館協会 (ARLIS/NA) は、美術・建築を専門とする司書や研究者など1,000名以上が参加する組織である。今回、初の日本スタディツアーとして16名が来日し、10月22日に東京文化財研究所と共催で国際シンポジウムを開催した。日本と北米の関連機関のアーカイブズ・図書館担当者が活動や所蔵資料を紹介し、ディスカッションを通じて意見を交わした。国内外の専門家が参加し、活発な議論が展開された。また、スタディツアーの一環として東京都内の美術アーカイブや図書館の視察を企画・調整し、関係機関の協力のもと、実施に至った。

日時: 2024(令和6)年10月22日(火) 13:30~18:00

会場: 東京文化財研究所 セミナー室

主催: 東京文化財研究所・北米美術図書館協会 (ARLIS/NA)

参加者: 71名

プログラム:

開会挨拶 江村知子(東京文化財研究所)

第1部 小林芳幸(国立国会図書館)「デジタルアーカイブのナショナルプラットフォーム「ジャパンサーチ」」/橘川英規(東京文化財研究所) 東京文化財研究所所蔵近代美術アーカイブ」

第2部 ARLIS/NA日本関係コレクションの事例研究 Dan Lipcan(Peabody Essex Museum, (read by Ms. YASUDA Seira of Boston Architectural College)「Introduction –and– Objective Enthusiasm: the Papers of Edward Sylvester Morse (1838-1925)」/ Emilee Mathews(University of Illinois)「Connections between University of Illinois and Japan」/

Alexandra Austin(Pratt Institute)「Teaching with Video Games – Using Animal Crossing: New Horizons (あつまれどうぶつの森) to Support Student Success in the Library」/ (Elizabeth Smart,(Brigham Young University Library)「Japanese Rare Books & Materials in Libraries of the Mountain West of the United States」/ Angela Lorenz(Visual artist)「The Omori Story – American Artist Annie Shepley (1856-1941) and Japanese Olympian Hyozo Omori (1876-1913) in Bowdoin College Special Collections and Archives (Maine, USA)」

ディスカッション ディスカッサント：山梨絵美子(千葉市美術館)

文化財情報資料部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

シンポジウム「黒田清輝、その研究と評価の現在—— 没後100年を機に」

(①シ03の一部として実施)

当研究所は、“日本近代洋画の父”と称される洋画家の黒田清輝(1866～1924)の遺産により、昭和5(1930)年に創設された。現在は東京国立博物館の施設として黒田の作品を展示公開している黒田記念館は、もともと当研究所の前身である美術研究所として建てられたものである。令和6(2024)年に黒田の没後100年を迎えたのを記念して、当研究所の主催により、創設の地である黒田記念館のセミナー室を会場として、本シンポジウムを開催した。

日時：2025(令和7)年1月10日(金)

会場：黒田記念館 セミナー室(オンライン併用)

参加者：63名

プログラム：

基調講演

塩谷純(東京文化財研究所)「黒田清輝の画業について——神津港人の視点から」

発表

三谷理華(女子美術大学)

「黒田清輝とラファエル・コラン——いくつかの視点をめぐって」

高山百合(福岡県立美術館)

「黒田清輝以降——昭和期における「官展アカデミズム」の諸相」

友岡真秀(鳥取県立博物館)

「黒田清輝からの学びと地方への伝播——鳥取県出身者の場合」

ディスカッション

塩谷純、三谷理華、高山百合、友岡真秀

無形文化遺産部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

第18回無形文化遺産部公開学術講座

(①ム01の一部として実施)

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は長野県飯島町にある勝山織物株式会社絹織製作研究所の志村明氏(選定保存技術「在来絹製作」各個認定保持者)と秋本賀子氏の染織品修理の材料として用いられる絹の製作技術に焦点を当て、東京文化財研究所で行った調査・記録事業を紹介するとともに、染織品を取りまく修理技術や修理材料の製作技術の状況について紹介した。

日時：2024(令和6)年12月6日(金) 13:00～17:00(開場12:30)

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：122名

プログラム：

趣旨説明：菊池理予(東京文化財研究所)

講演：

文化財の保存技術—在来絹製作— 多比羅菜美子(文化庁 文化財第一課)

我が国が保有する日本在来および世界の多彩な蚕品種の紹介とその保存

状況 伴野豊(駒ヶ根シルクミュージアム館長・九州大学名誉教授)

絹織製作技術の現状と継承 志村明・秋本賀子(絹織製作研究所)

その他：

ロビー展示解説

志村明・秋本賀子(絹織製作研究所)、伴野豊(駒ヶ根シルクミュージアム館長・九州大学名誉教授)



令和4年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業 『美術研究』(調査・研究成果の公開) ^(シ07)



『日本美術年鑑』

『日本美術年鑑』は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。令和4年版は、B5判、134ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行、以来90年にわたり日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論説、研究ノート、書評、展覧会評、研究資料等を掲載している。本年度は443号、444号、445号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



無形文化遺産部出版関係事業 ^(ム04)



『無形文化遺産研究報告』第19号

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術、無形文化遺産保護の国際的な動向等に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。第19号には報文5本を掲載の他、特集記事として「能登半島地震と無形文化遺産」65ページを掲載。2025年3月刊行、168ページ。

第19回無形民俗文化財研究協議会

『ステージの上の民俗芸能—その魅せ方をめぐって—』

12月20日に開催した第19回無形民俗文化財研究協議会の報告書として刊行。今回は民俗芸能の舞台公演をテーマに、舞台に関わる4名の発表者と2名のコメンテーターらによる発表・討議内容を掲載。文化財の活用が叫ばれる昨今、民俗芸能の舞台公演もその一手段として注目されており、その具体的方法を探った。2025年3月刊行、108ページ。





『和泉市久保惣記念美術館・東京文化財研究所共同研究資料 1 重要文化財 絹本着色 「山崎架橋図」 和泉市久保惣記念美術館蔵』

和泉市久保惣記念美術館との共同研究として実施した「山崎架橋図」の光学調査（高精細カラー画像、近赤外線画像、蛍光画像）の成果を紹介するリーフレットを作成し、同館の来訪者や研究機関等に配布した。2025年3月刊行、12ページ。
(①シ04の一環として刊行)

『皇居三の丸尚蔵館収蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵 巻十七・巻十八 光学調査報告書』

東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館（当時）と共同で実施した、鎌倉時代を代表する絵巻物「春日権現験記絵」全20巻の光学調査のうち、巻十七・巻十八に関する報告書である。さまざまな光源での撮影や蛍光X線分析による材料や技法に関する調査結果のほか、作品解説、有職故実に関する論考を掲載した。2025年2月刊行、184ページ。
(④シ05の一環として刊行)

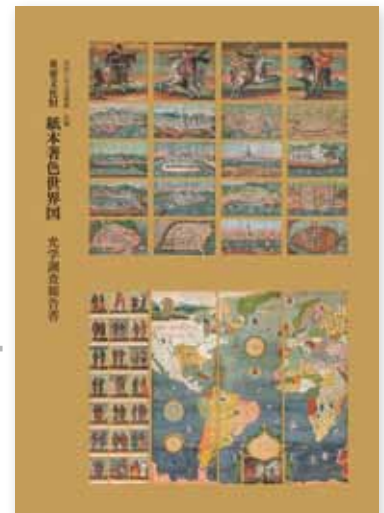


皇居三の丸尚蔵館収蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵 蛍光X線分析結果』

2004年から13年をかけて行われた「春日権現験記絵」の解体修理の前後に実施した彩色材料分析の結果をまとめた報告書。全20巻で4000箇所を上回る分析ポイントについて白、赤、黄、といった色ごとにその解析結果と特徴を明らかにした。2025年1月刊行、78ページ。
(④シ05の一環として刊行)

『皇居三の丸尚蔵館収蔵 重要文化財 紙本着色 世界図 光学調査報告書』

初期洋風画の優品として知られる「世界図」を中心に、関連する「泰西王侯図屏風」（長崎歴史文化博物館）、「泰西王侯騎馬図屏風」（サントリー美術館・神戸市立博物館）、「チュニス戦闘図・世界地図」（香雪美術館）などの作品についても総合的に実施した光学調査の報告書。2025年3月刊行、200ページ。
(④シ05の一環として刊行)



『Japanese Lacquerwork and Craftspersons in Thailand -Study of the Japan-made Lacquerwork Found in Thailand (2) 』

幕末から明治期に日本で制作され、現在はタイに所在する漆工品に関するこれまでの調査研究の成果をまとめた報告書の第2冊目の英語版。本書では国立図書館、王室寺院、離宮などに所在する日本製漆工品のほか、タイに所在する日本製漆工品が記録された古写真、1910年代から第二次世界大戦終了までタイで活動した三木栄などの日本人漆工専門家についても紹介した。2025年3月刊行、160ページ。

(④シ05の一環として刊行)



『第17回公開学術講座「宮園節の魅力を探る」報告書』

令和6年度に東京文化財研究所にて開催した第17回公開学術講座「無形文化財と映像」の報告書。5本の発表、座談会の内容を文字化したほか、関連資料[園八節由緒書他]の解題・翻刻を収めた。2024年8月刊行、86ページ。なお同報告書は当研究所ウェブサイトでも公開した。

(①ム01の一環として刊行)



『Techniques that Support Japanese Performing Arts IV : Gagaku Fukimono』

2017 (平成29) 年より継続的に行っている、芸能を支える文化財保存技術の調査と並行して、その製作者と技術に焦点を当てて刊行しているパンフレット『日本の芸能を支える技 IV 雅楽管楽器』の英語版。2025年3月刊行、8ページ。

(①ム01の一環として刊行)



『Techniques that Support Japanese Performing Arts VI : Shamisen』

2017 (平成29) 年より継続的に行っている、芸能を支える文化財保存技術の調査と並行して、その製作者と技術に焦点を当てて刊行しているパンフレット『日本の芸能を支える技 VI 三味線』の英語版。2025年3月刊行、12ページ。

(①ム01の一環として刊行)



東文研 総合検索 (④シ05の一部として実施)

東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、30件のデータベース、約180万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。www.tobunken.go.jp/archives/

博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)^(ホ08)

研究組織 犬塚将英、秋山純子、芳賀文絵、水谷悦子、柘植奈穂(以上、保存科学研究センター)、千葉毅、由井和子(以上、保存科学研究センター併任、文化財防災センター)

- 目 的**
- 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。
 - 2) 研修の体系を完成させるとともに、研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

成 果

- ・第4回博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)を実施した(7月8～12日、受講者24人)。
- ・令和13年度より保存環境に重きを置いた基礎的な内容を文化財活用センターが「基礎コース」として行い、東京文化財研究所では、「上級コース」としてこれまで博物館・美術館等保存担当学芸員研修を受講されてきた方々や同等の経験を有している方を対象に実施した。
- ・研修内容は次のとおりである。文化財修理原論、文化財の科学調査、空気質(空気質について/空気汚染の文化財への影響/空気質の換気の考え方)、保管環境に関する理論と実践(空調)、文化財IPM概論・実習、修復材料の種類と特性、屋外資料の劣化と保存、近代化遺産の保護、多様な文化財の保存と修復(文化財レスキューについて/一時保管施設の環境管理/博物館現場で日常的に実践できる文化財防災)、博物館の防災、

民具の保存と修復、大量文書の保存・対策、紙本作品等の保存と修復、写真の保存・管理。

- ・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行ったところ、受講生の本研修に対する満足度は100%であった。



研修の様子

文化財の収集・保管に関する指導助言^(シ)

担 当 江村知子、二神葉子、橘川英規、米沢玲、城野誠治、吉田暁子、田代裕一郎、月村紀乃(以上、文化財情報資料部)、小林公治(特任研究員)

- 目 的** これまでに蓄積された文化財に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて、専門的な見地から保存・伝承・活用等に関する助言を行うことにより、文化財保存の質的向上に貢献する。

成 果

助言の依頼は国(2件)、地方自治体(10件)、関連機関(9件)、海外(17件)の合計38件で、以下の通りである。

- ・文化審議会世界文化遺産部会臨時委員として日本における世界遺産条約の履行のあり方に関する検討での助

言

- 文化庁の非常勤調査員として美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業に関する助言
- 国立歴史民俗博物館運営会議委員・資料収集委員会委員として博物館運営に関する検討での助言、及び同館資料収集委員会委員として作品収蔵に関する検討での助言
- 江戸東京博物館資料収蔵委員として作品収蔵に関する検討での助言

以下、文化財調査・保管等に関する協力・助言

愛知県美術館、和泉市久保惣記念美術館、絵金蔵、神奈川県立歴史博物館、京都府教育委員会、佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県立博物館、サントリー美術館、泉屋博

古館東京、仙台市教育委員会、徳川美術館、中之島香雪美術館、日本二十六聖人記念館、野崎家塩業歴史館、北海道立北方民族博物館、大和文華館、和歌山県立博物館、温州市洞頭東海貝彫芸術博物館・温州博物館・浙江省博物館（中国）、韓国国立中央博物館・リウム美術館・駐日韓国大使館韓国文化院（韓国）、タイ国立図書館、パウアー財団東洋美術館・リートベルク美術館（スイス）、ライブツィヒ・グラッシー民族博物館（ドイツ）、セインズベリー視覚芸術センター（イギリス）、ポズナン国立美術館（ポーランド）、Basílica de Santa María de Guadalupe 博物館・Casa de Alfeñique 博物館・José Luis Bello y González 博物館（メキシコ）、Madeira 自治地域 Direção Regional da Cultura（ポルトガル）、サンパウロ大学考古民族学博物館（ブラジル）

無形文化遺産部

2-(5)-②-1)

無形文化遺産に関する助言^(ム)

担 当 石村智、久保田裕道、前原恵美、今石みぎわ、後藤知美、鎌田紗弓（以上、無形文化遺産部）

目 的 これまでに蓄積された無形文化遺産に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて、専門的な見地から保存・伝承・活用等に関する助言を行うことにより、無形文化遺産の継承に資する。

成 果

○国への助言

- 文部科学省への教科用図書検定調査審議会への助言 1 件
- 文化庁の調査員としての助言 3 件
- 文化庁への各種委員会への助言 4 件
- 文化庁模写模造事業に関する指導助言 1 件
- 文化庁への審査に関する助言 1 件
- 独立行政法人国際交流基金への助言 1 件

○地方自治体への助言

- 山形県への文化財保護審議委員としての助言 1 件
- 山形県立博物館の運営協議会委員としての助言 1 件
- 千葉県への博物館資料審査委員及び記録映像作成検討委員会委員としての助言 2 件
- 東京都のアーツカウンスル東京への助言 1 件
- 東京都民俗芸能大会実行委員としての助言 1 件
- 神奈川県への民俗芸能記録保存調査現地調査委員会専門調査委員としての助言 1 件
- 神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会委員としての助言 1 件
- 山梨県への文化財保護審議会委員としての助言 1 件
- 静岡県ふじのくに無形民俗文化財保存継承アドバイザーとしての助言 1 件
- 島根県への古代文化センターへの助言 2 件
- 高知県碇石茶製造技術調査委員としての助言 1 件
- 沖縄県への武術的身体表現を伴う行事調査に関する助言 1 件
- 沖縄県における文化芸術の振興にかかる多様な財源確保可能性等検討委員会への助言 1 件

- 上尾市文化財保護審議会委員としての助言 1 件
- 柏市への篠籠田の獅子舞調査検討委員会委員としての助言 1 件
- 武蔵野市文化財保護委員としての助言 1 件
- 甲府市への天津司舞調査報告書作成事業に関する助言 1 件
- 箱根町への箱根湯立獅子舞伝承・活用等事業に係る整備委員会委員としての助言 1 件
- 静岡市文化財保護審議会委員としての助言 1 件
- 岐阜県岐阜市・関市の鶺鴒習俗総合調査委員としての助言 1 件
- 京都市への京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議委員としての助言 1 件

○関連団体への助言

- 公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言 1 件
- 公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団への伝統文化ポーラ賞選考委員会選考委員としての助言 1 件
- 公益財団法人久留米絊技術保存会の「重要無形文化財久留米絊原材料アラソウ製作実験に関する調査に関する助言 1 件
- 一般財団法人 沖縄美ら島財団令和 6 年度 被災染織品復元製作 ワーキング会議に関する助言 1 件
- 一般社団法人技の環の評議員としての助言 1 件
- 一般財団法人日本青年館への全国民俗芸能大会企画委員としての助言 1 件
- 文化ファッション研究機構運営委員としての指導助言 1 件